

★87. 5時間の特色

生活を工夫し創造する能力を伸ばすための指導計画

○題材ごとにシラバスを作成し、見通しをもって学習できるようにする。また、シラバスに毎時間ごとに振り返りができる欄を設け、言語活動の充実を図り、学習の軌跡をたどれるようにする。

○体験的な学習から実生活に生きる技能を身に付けられるようにする。

○BとD、CとAのようにお互いに関連をもちながら、子どもたちの自立を目指して、日常生活の一連の中でストーリー性のある指導となるようにしたい。

1年生

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
1	自分の成長を振り返ろう	A(1)ア
2		
3	はじめよう！健康生活	B(1)ア イ
4	・食事の役割を考えよう ・栄養素の種類と働きを知ろう	
5		
6	試して学ぼう食品群！	B(2)ア イ
7	・食品に含まれる栄養素を知ろう ・何をどのくらい食べればよいか考 えよう	
8	・バランスのとれた食生活を考えよ う	
9	・献立を立てよう	
10		
11		B(2)ウ (3)ア
12		
13		
14	賢く選んで調理をしよう！	
15	・食品の選び方を考えよう(加 工食品、生鮮食品、食品添加 物)	
16	・目的にあった食品を選ぼう	
17	・肉の調理をしよう	
18	・魚の調理をしよう	
19		
20		
21		
22		
23	よりよい買い物をしよう！	D(1)ア イ
24	・消費者としての自覚を持とう	
25	・商品の選択と購入について 考えよう	
26	・消費者の権利と責任を知ろ う	
27	・消費者トラブルを解決する方 法を知ろう	
28	・よりよい消費生活を目指して	
29		
30	自分の衣生活を見つめよう！	C(1)ア イウ
31	・着る目的を考えよう	
32	・衣服の計画的な活用方法を 考えよう	
33	・必要な衣服を選択しよう	
34	・衣服の手入れをしよう	
35		

2年生

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
36		
37		
38	我が町最高！食文化を知ろ う！	B(3)イ
39	・地域の食文化を知ろう	
40	・よりよい生活を目指して	
41		
42		
43	食生活についての課題と実 践	B(3)ウ
44		
45		
46		C(2)ア イ
47	安全で快適な住まい方を考 えよう！	
48	・住まいの役割とは何だろう	
49	・家族と住まいのかかわりを 考えよう	
50	・安全に住むためにはどうし たらよいだろう	
51	・健康で快適な室内空間を 考えよう	
52	・よりよい住生活を目指して	
53		
54		C(3)ア
55	快適便利！作って使おう布 小物	
56	・生活を豊かにするための 工夫をしよう	
57		
58		
59		
60		
61	暮らし安心！消費生活	D(2)ア
62	・生活と環境のかかわりに ついて考えよう	
63		
64		A(2)ア イ
65	支え合おう！家庭生活	
66	・家庭や家族の機能や地域 とのかかわりを考えよう	
67	・家族関係をよりよくしてい こう	
68	・演じて考えよう	
69		
70		

3年生

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項
71		
72		
73		
74		
75		
76	幼児の生活を応援しよう！	A(3)ア イウ
77	・幼いころを振り返ろう	
78	・幼児の心身の発達と生活 を考えよう	
79	・幼児の生活と遊びを知ろう	
80	・幼児と触れ合おう	
81	・幼児のためのおやつづくり	
82		
83		
84		
85		
86	わたしたちの成長と家族・地 域の課題と実践	A(3)エ
87		
88		

各題材の体験的・実践的学習内容

A 家族・家庭と子供の成長について

・家族関係を考えるロールプレイングを行う。

・家族に幼児期の聞き取りを行う。

・幼児への言葉がけのロールプレイングを行う。

・幼児とのふれあい体験を実施する。

・幼児の発達に合わせておもちゃを製作する。

・幼児のおやつ作りについて、各自課題を設定し、

課題に基づいた調理を行い、レポートにまとめる。

B 食生活と自立について

・食材カードを使って食品に含まれる栄養素を理解

する。

・食品の重さを量る。

・問題解決型の調理実習を行う。

・地場産物を使った題材設定を行う。

・季節の家庭料理について、調べレポートにまと

める。

C 衣生活・住生活と自立

・浴衣の着装を実際に体験する機会を設ける。

・制服やVシャツを使って、手入れの方法を考える。

・自分の生活に役に立つように計画し、実習を行

う。

・健康で快適な住まいとなる工夫について考えて調

査する。

D 身近な消費生活と環境

・自分が欲しい商品について購入計画を立てる。

・消費者トラブルの対応の仕方についてロールプレ

イングをする。

・市の消費生活センターの方の話を聞く。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	自分の成長を振り返ろう
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	（ 1時間扱い）
	・3年間を見通したガイダンス ・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりを考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A (1) ア	3 学年間の学習に見通しをもち、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて関心をもって学習活動に取り組もうとしている。			

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・自分の成長をふりかえろう (1)	・小学校の学習を振り返り、3 学年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。			

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって身近な物語を活用しながら、自分の成長とそれにかかわってきた人々を図に表したりして、成長過程を振り返る活動をする。 ・ガイダンスシートを用いて、小学校家庭科の学習を振り返ったり、中学校家庭分野の学習のねらいや概要にも触れ、3年間を見通しをもち、これから自分はどうのように成長していきたいか具体的な目標を立てていく。 	
--	--

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

是頁木才名	はじめよう！健康生活
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	(3時間扱い)
	・食事の役割を考えよう ・栄養素の種類と働きを知ろう

1. 評価規準に盛り込むべき事項 (※国立教育政策研究所の冊子から転記する。)

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B (1) アイ	中学生の食生活と栄養について関心を持って学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	中学生の食生活と栄養について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。		中学生の食生活と栄養について理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例 (※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。)

・食事の役割って何だろう？	・自分の食生活に関心を持ち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践しようとしている。			・食事の役割や健康によい食習慣の重要性について理解している。
・中学生に必要な栄養を知ろう				・栄養素の種類と働きについて理解している。 ・中学生に必要な栄養の特徴について理解している。
・自分の食生活を点検してみよう	・中学生に必要な栄養の特徴について関心を持ち、自分の食事と関わらせて考えようとしている。	・自分の食生活を点検し、課題を見つけ、健康に良い食習慣などについて考え、工夫している。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て (言語活動など)

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活についての課題についてワークシートに記入する。 ・中学生の栄養の特徴についてワークシートに記入する。 ・学習したことをレポート形式で簡単にまとめられるようにする。
--

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

是頁材名	試して学ぼう食品群 (5時間扱い)
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品に含まれる栄養素を知ろう。 ・何をどれくらい食べればよいか考えよう。 ・バランスのとれた食生活を考えよう。 ・1日分の献立をたてよう。

1. 評価規準に盛り込むべき事項 (※国立教育政策研究所の冊子から転記する。)

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B(2) アイ	日常食の献立と食品の栄養的特質について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の栄養的特徴について課題を見付け、その解決を目指し工夫している。	1日分の献立をたてるための基礎的・基本的な技術を身に付けている。	日常食の献立と食品の栄養的特徴について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例 (※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。)

食品に含まれる栄養素を知ろう。 ・食品成分表を利用して、栄養素を多く含む食品を調べよう。				<ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養的特質について理解している。
何をどれくらい食べればよいか考えよう。 ・食品の栄養的な特徴を基に食品群に分類する。 ・食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について関心を持ち、食品について調べたり、計量したり、手で重さを量ったり、どのくらいの重さかを予想したりしようとしている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。 ・実際に数種類の食品を食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。
栄養のバランスのとれた献立を考えよう。 ・給食の献立の栄養のバランスを点検する。				<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の立て方について理解している。
1日分の献立を立てよう ・1日分の献立を考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。 		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て(言語活動など)

<ul style="list-style-type: none"> ・バランスの良い献立が考えられるように、6つの食品群に分けた表を活用し、食品を分けられるようにする。 ・調理実習の計画を立てる際にも、表を活用し6つの食品群に対する意識を高める。 ・2年生になって、地域の料理を作る時にも活用し、日常で生かせるようにしていく。 ・1日に必要な食品の概量については、食品を用意し、手で量ったり、見て予想させたりする活動を通して、日常生活でも活かせるようにしていく。
--

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

是頁材名	賢く選んで調理をしよう (13時間扱い)
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選び方を考えよう（加工食品、生鮮食品、食品添加物） ・目的にあった食品を選ぼう ・肉の調理をしよう ・魚の調理をしよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項 (※国立教育政策研究所の冊子から転記する。)

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B(2)ウ (3)ア	日常食の献立と食品の選び方、日常食の調理について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方、日常食の調理について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方、日常食の調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。 日常食の調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例 (※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。)

食品の旬や出盛り期、生鮮食品の鮮度や保存方法について話し合う。				・生鮮食品の旬について理解し、身近な生鮮食品の鮮度の見分け方について理解できる。
加工食品の種類と特徴について知り、使用するときの注意点について考える。				・加工食品の特徴や種類について知り、使用するときの注意点について理解することができる。
食品添加物の目的や食品の保存方法について調べてまとめる。ハムを使って食品添加物について必要な情報を整理する。			・食品の保存方法について調べ、食品に適した保存方法をまとめたり、どんな食品にどんな食品添加物が使われているか調べることができる。	
食品の保存方法について調べたり、梅ジュースを保存瓶に入れて作ったりする。	・梅ジュース以外のそのほかの保存方法について調べようとしている。			・食品の種類によって保存方法が違うことを理解することができる。
実習で使う肉の選択をするために、必要な情報を集め、整理し		・用途に応じた食品の選択について、収集 ・整理した情報を活用して考え、工夫し		

グループで話し合う。		ている。		
肉料理の調理のポイントを押さえ、つけ合わせを考えながら、実習の計画を立てることができる。	・肉の調理に関心を持ち、実習に意欲的に取り組もうとしている。			・肉の調理方法を知ることができる。
肉の加熱による変化を確認しながら、調理実習を行う。	・肉の調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。	・肉の調理上の性質を生かした調理をしたり盛りつけたり工夫している。	・調理の目的に合った基本的な調理操作ができる。 ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具などの適切な管理ができる。	
鯖の調理を主菜にした1食分の献立を考え、副菜と汁物について話し合う。また、日本食のよさについても考える。	・調理に必要な手順や時間を考えて計画を立てたり、食品の性質を生かした調理をしたりしようとしている。			・鯖の調理の方法や手順について理解することができる。
鯖の選択をするために必要な情報を思い出し、視点を自分で決めたり、グループで話し合いをしたりする。			・鯖の調理をするための必要な情報を収集 ・整理する活動ができる。	
調理の手順に沿って、安全と衛生に留意しながら、効率よく鯖の調理を主菜とした1食分の献立をする。	・魚の調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。		・調理の目的に合った基本的な調理操作ができる。 ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具などの適切な管理ができる。	

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

- ・食品の選択をする際に、グループで話し合う活動を行っていくが、話し合った内容が、伝わるように支援する。
- ・グループで話し合ったことをもとに、自分だったらどう考えていくかをワークシートにまとめさせる。
- ・調理実習後の評価について、自己評価や相互評価などにより課題意識を持たせながら、レポートにまとめる活動う。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	自分の衣生活を見つめよう！	（ 7時間扱い）
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・着る目的を考えよう ・衣服の計画的な活用方法を考えよう ・必要な衣服を選択しよう ・衣服の手入れをしよう 	

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
G(1) アイウ	衣服の着用，選択，手入れについて関心をもって学習活動に取り組み，衣生活をよりよくしようとしている。	衣服の着用，選択，手入れについて課題を見付け，その解決を目指して工夫している。	衣服の着用，選択，手入れに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣服の着用，選択，手入れについて理解し，基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は，3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・着る目的を考えよう(2)	・衣服と社会生活とのかわりに関心を持ち，時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。	・目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え，工夫している。		・衣服の社会生活上の機能について理解している。
・衣服の計画的な活用方法を考えよう(1)		・目的に応じた衣服の適切な選択について，収集・整理した情報を活用して考え，工夫している。		・衣服の計画的な活用の必要性を理解している。
・必要な衣服を選択しよう(1)			・既製服を選択するために必要な情報を活用して考え，工夫している。	・既製服の表示と選択に当たったの注意事項について理解している。
・衣服の手入れをしよう(2)	・衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え，工夫している。		・衣服の材料やよごれ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる	・洗濯の要点と方法について理解している。 ・補修の目的と布地に適した方法について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・「着る目的を考えよう」では，自分たちの着ている制服を取りあげ，話し合わせることにより，必要性に気付かせる。また，Myコーディネートの実習では，自分の好みや考えを，見る人に分かりやすくまとめるように助言する。その際，前年度の生徒の資料等を用意し参考にできるように教室環境を構成する。 ・「衣服の計画的な活用方法を考えよう」では，実際の活用方法を話し合う時に，衣服の見本を実際に用意しておくことで，より具大意的な方法を見付けたり実践したりしようという気持ちをもたせる。 ・「衣服の手入れをしよう」では，家庭での洗濯方法について事前に調べることで，洗濯に対する意識を高める。また，給食の時に付いた食品によるしみやよごれを課題に取りあげるなど，生徒の日常の中での汚れにを落とす実習を行い，問題解決的な学習方法を行う。

技術・家庭科(家庭分野)評価規準表

題材名	よりよい買い物をしよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚を持つ ・商品の選択と購入について考えよう ・消費者の権利と責任を知ろう ・消費者トラブルを解決する方法を知ろう ・よりよい消費生活を目指して 	(6時間扱い)
-----	---	----------

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技能についての知識・理解
D(1) アイ	家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

・消費者としての自覚を持つ (1)	・自分や家族の消費生活について関心を持ち、消費の在り方を改善しようとしている。			・契約の意味について理解している。
・商品の選択と購入について考えよう (2)	・身近な販売方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。		・物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集・整理することができる。	・中学生にかかわりの深い販売方法の特徴について理解している。 ・物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。
・消費者の権利と責任を知ろう (1)				・消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。
・消費者トラブルを解決する方法を知ろう (1)		・消費者としての自覚を持ち、課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。	・クーリングオフ制度を利用して契約取り消しの文書を書くことができる。	・身近な消費者トラブルの事例とその解決方法を理解している。
・よりよい消費生活を目指して (1)		・消費者としての自覚を高め、よりよい消費生活を工夫している。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て(言語活動など)

<ul style="list-style-type: none"> ・消費行動について想起したことを発言さ、キーワードをもとにまとめ、概念図で表現する。 ・消費者の権利と責任については、自分の消費行動と結び付けて考え、発表させる。 ・クーリングオフ制度を理解させるために、実際に契約取り消しの通知文を書かせる。 ・購入後に商品の不良を発見した等の問題、消費者トラブルがあったときに、どう対応したらよいかロールプレイングなどを通して考え、発表させる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

是頁木才名	わが町最高！食文化を知ろう (10時間扱い)
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食文化を知ろう ・よりよい生活を目指して ・食生活についての課題と実践（〇〇のためのお弁当を作ろう）

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
B(3)イ	日常食の調理と地域の文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

地域の食材を使った料理を調べる。地域の食材を使った料理について、本やインターネットで調べる。	・地域の食材を生かした日常食の調理を調べることを通して、地域の文化に興味をもっている。			
地域の食材を使った料理の計画を立てる。地域の食材で、主食・主菜・副菜・汁物を作る計画を立て、グループごとに調理のテーマや料理を食べる対象者を考える。		・地域の食材を使った調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、地域の食材の調理上の性質を生かした主菜・副菜・汁物・主食の調理を工夫したりしている。		・地域の食材を使った調理方法について理解することができる。
地域の食材を使った調理実習をする。	・意欲的に実習に取り組んでいる。		・地域の食材の調理上の性質を生かした調理・調味・盛り付け ・配膳を行うことが	

地域の食材を使った料理のレシピや食材の特色などを入れた新聞づくりをする。			できる。	・地域の食文化の意義について理解している。
自分や家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、食生活の課題を見つける。	・自分や家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、自分たちの食生活についての課題を見付けようとしている。			
よりよい生活にするためのお弁当について考え、お弁当づくりの計画を立てる。	・自分や家族の食生活を振り返り、どのようなお弁当を食べているかの見直しを行い、お弁当の調理の計画と実習に取り組もうとしている。			・お弁当を作る際に気をつけなければならないことについて理解する。
		・栄養のバランスを考えたり地域の食材を取り入れたり、対象者にあったお弁当であるかなど、課題の解決をめざして、お弁当づくりの計画を自分なりに工夫しているか。		
お弁当づくりを自分で家庭で行い、実践発表会をする。		・お弁当づくりの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

- ・地域の食材を生かした献立のレシピを作ったり、調べたことや学んだことをレポートにまとめる。
- ・栄養のバランスや地産地消のよさなどレポートにまとめるようにする。
- ・出来上がり写真なども印刷して自由に貼れるようにしていく。
- ・お弁当づくりでは、課題をもとに、長期休業などに実施する。
- ・簡単なプレゼンなどを行うように場の設定をする。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	食生活で実践しよう！食生活についての課題と実践
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	(3時間扱い)
	・つくろう料理コンテスト

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

B (3)	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・つくろう料理コンテスト (3)	・自分や家族の食生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的に捉え、日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組みようとしている。	・自分や家族の生活について課題を見付け、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を自分なりに工夫している。 ・日常食又は地域の食材を生かした調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食材を用いるとともに、自分や家族の食生活の課題にも目を向け、年齢やテーマに合わせたバランスの良い食事を考えて計画する。実践、評価を行い、改善に向けてもう一度見直す。また、実践発表会を設け、自分の料理や工夫・改善点について、わかりやすく伝えるプレゼンテーションの工夫をしていく。 ・将来にわたって健康に生活していけるよう、得た知識や技術を家庭で実践できるようにする。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	安全で快適な住まい方を考えよう！	（ 8時間扱い）
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割とは何だろう ・家族と住まいのかかわりを考えよう ・安全に住むためにはどうしたらよいだろう ・健康で快適な室内空間を考えよう ・よりよい住生活を目指して 	

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

C(2) アイウ	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み、住生活をよりよくしようとしている。	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。		住居の機能について理解し、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割とは何だろう (2) 				<ul style="list-style-type: none"> ・住居の基本的な機能について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・家族と住まいのかかわりを考えよう (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・ (1) 	安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。			
<ul style="list-style-type: none"> ・健康で快適な室内空間を考えよう (2) 				<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい住生活を目指して (2) 		<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。 		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・「住まいの役割とは何だろう」では、「もしも住まいがなかったら」など生徒自らが自分の生活をヒントに話し合えるような課題を投げかけて、グループで話し合わせるようにする。 ・「家族と住まいのかかわりを考えよう」では、縄文時代の家、昭和初期の家、現代の家の間取りを資料として用意し、じゅう空間と生活の役割について興味をもって進められるようにする。 ・「安全に住むためにはどうしたらよいだろう」では、東日本大震災での被災状況を振り返り、災害に備える工夫について考えさせる。（ワークシート） ・「よりよい住生活を目指して」では、家族が安心して安全に暮らせる住まいをグループごとに考え、ポスターセッション方式で発表する。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	快適便利！作って使おう布小物	（ 7時間扱い）
※3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするための工夫をしよう ・ブックカバーやアイデアバッグを作ろう 	

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

C(3) ア	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	衣生活、住生活などの生活の工夫について関心をもち、布を用いた物の製作などに取り組み、衣生活又は住生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活、住生活などの生活の工夫について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	布を用いた物の製作や布製勝、住生活などの生活の工夫に関する生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにするための工夫をしよう (1) 				<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた物の製作に関する知識を身に付けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ブックカバーやアイデアバッグを作ろう (6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた物の製作に関心をもって取り組み、自分や家族の生活を豊かにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で能率良く、布を用いた物の製作をすることができる。 	

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた製作計画を立てる時には、前年度の製作品など教室に掲示し、工夫を考えるとときの具体的なヒントとなるようにする。また、ワークシートに、安全で能率良く進めるための工夫を書く欄を設け、実習時にデジタルタイマーを使って時間を意識させる。 ・毎時間ごとに製作を振り返らせ、自己評価し、次時の製作に生かす。また、自己評価カードには、グループごとに学び合いや教え合いを記入する欄も設け、交流を促していく。 ・出来上がった作品について、活用することによって達成感や有用感をもたせるようにする。また、活用レポートを作成し、改善点や気付いた点をまとめさせる。
--

技術・家庭科(家庭分野)評価規準表

題材名	暮らし安心！消費生活 (3時間扱い)
	・生活と環境のかかわりについて考えよう

1. 評価規準に盛り込むべき事項

D (2)	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技能についての知識・理解
	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

・生活と環境のかかわりについて考えよう (3)	・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。	・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考え工夫しようとしている。		・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。
-------------------------	---	--	--	--

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て(言語活動など)

<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と資源やエネルギーのかかわりについて、自分の生活を振り返って、環境に配慮した生活について工夫していることを発表させる。 ・グリーンコンシューマーになるために必要なことを考えさせ、発表させる。 ・環境アクションプランを1週間実施させる。そして継続するために、成果や課題、改善策を考えさせる。

技術・家庭科(家庭分野)評価規準表

題材名	支え合おう！家庭生活 (7時間扱い)
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう ・家族関係をよりよくしていこう

1. 評価規準に盛り込むべき事項

A (2)	生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技能についての知識・理解
	家庭と家族関係について関心をもって学習活動に取り組み、家庭生活をよりよくしようとしている。	家庭と家族関係について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。		家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわりについて理解している。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう (3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族、地域とのかかわりについて関心をもっている。 ・家庭生活と地域とのかかわりに関心をもち、地域の人々とのかかわりについて話し合うことなどを通して、地域の人々とのつながりの大切さに気付いている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や家族の基本的な機能について理解している。 ・家庭や家族の重要性に気付き、家族の一員として自分にできることを理解している。 ・家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・家族関係をよりよくしていこう (4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち、家族関係をよりよくする方法を考え、実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活について課題を見付け、家族関係をよりよくするための方法を考え、工夫している。 		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て(言語活動など)

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や家族の基本的な機能について、グループで話し合い、ワークシートにまとめることで、知識・理解の定着を目指す。 ・地域の活動について調べたことをまとめて発表させたり、家族や地域の一員としてできることを考え、グループで意見交換を行う。 ・これから家族のためにできることを具体的に考え、まとめさせる。

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	幼児の生活を応援しよう！ (15 時間扱い)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼い頃を振り返ろう ・ 幼児の心身の発達と生活を考えよう「キッズウォッチングをしよう」 ・ 幼児の生活と遊びを知ろう ・ 幼児と触れ合おう「キッズレポートをまとめよう」

1. 評価規準に盛り込むべき事項（※国立教育政策研究所の冊子から転記する。）

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A (3) アイウ	幼児の生活と家族について、関心をもって学習行動に取り組み、家族または幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	幼児の心身の発達の特徴と遊びの意義について理解している。

2. 学習内容及び評価規準の設定例（※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。）

・ 幼い頃を振り返ろう (1)	・ 幼いころを振り返り自分の成長や生活は家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付く。			
・ 幼児の心身の発達と生活を考えよう (3) 「キッズウォッチングをしよう」				<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の観察を通して、幼児の身体の発育や運動機能の発達、言語および情緒、社会性の発達の特徴について理解している。 ・ 幼児の心身の発達を支える家族の役割について理解している。 ・ 基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性和それを支える家族の役割について理解している。
・ 幼児の生活と遊びを知ろう (7)	・ 幼児の心身の発達に応じた遊び道具について関心をもち、課題を主体的に捉え、遊び道具の計画や製作に取り組もうとし	・ 幼児の心身の発達に遊び道具について課題を見付け、その解決を目指して、遊び道具の製作計画を自分なりに工夫してい	・ 幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。	・ 幼児に徒った遊びの意義について理解している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊びを豊かにする遊び道具と遊びの環境について考えようとしている。 ・ 幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊び道具の製作と課題についてまとめたり、発表したりしている。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と触れ合おう (4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と触れ合う活動などを通して幼児に関心をもち、適切にかかわろうとしている。 ・ 家族または幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的に捉え、触れ合う活動などの計画と実践に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心身の発達に応じたかかわり方について、観点に基づいて、観察し整理することができる。 ・ 家族または幼児の生活について課題を見つけ、その解決を目指して幼児と触れ合う活動などの計画を自分なりに工夫している。 ・ 幼児と触れ合う活動などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 <p>(キッズレポートの作成)</p>		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て（言語活動など）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼い頃を振り返る中で、自分の成長に関するインタビューをわかりやすくまとめることができるように、家族などから聞いたことを記入するだけでなく、それを知ってどのように感じたかを記入する欄を設ける。 ・ 自分の生活が多くの人にささえられていることに気付くことができるようワークシートを工夫し、グループ内で発表し合うことで、他者との活発な情報や意見の交換ができるようにし、自己の気付きを深めることができるようにする。 ・ 幼稚園・保育園の訪問や、ビデオ視聴などを通して幼児の生活を観察し、発達段階に応じた心身の成長の特徴について、情報収集ができる機会を設け、体験したことから気付いたことを、言葉で表現する活動を取り入れる。 ・ 幼稚園・保育園での触れ合い体験を基に、自分の課題に沿って「キッズレポート」を作成し、幼児との遊びや工夫点、触れ合い体験を通して各自の課題についてわかったこと、これからの生き方へのつなぎ方などを明確にできるようにする。 ・ まとめたことをグループ内で発表し、話し合う場を設定し、各自の意見の共有化を図り、学び合いを深めることができるように工夫する。
--

技術・家庭科（家庭分野）評価規準表

題材名	幼児のためのおやつを作ろう！ (3 時間扱い)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のおやつ作りの課題を決めて、計画を立てよう ・ 課題に沿ったおやつ作りをしよう ・ 幼児のおやつづくりの成果と課題について話し合おう

1. 評価規準に盛り込むべき事項 (※国立教育政策研究所の冊子から転記する。)

	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
A (3) ウ	幼児の食生活について関心をもって学習活動に取り組み、幼児に適したおやつの調理計画と実践に取り組もうとしている。	幼児の食生活の特徴をとらえて、幼児の発達段階や興味・関心などに配慮したおやつを工夫できる。	幼児の発達段階や興味・関心などに配慮した材料の選択、献立、調理方法やもりつけ方ができる。	幼児の食生活やおやつの特徴、調理方法、盛りつけ方への配慮点について理解している。

2. 学習内容及び評価規準の設定例 (※左側の学習内容は、3年間を見通した特色ある指導事例から転記する。)

・ 幼児のおやつ作りの課題を決めて、計画を立てよう (1)	・ 幼児の食生活について関心をもって学習活動に取り組み、幼児に適したおやつの調理計画と実践に取り組もうとしている。			
・ 課題に沿ったおやつ作りをしよう (1)		・ 幼児の食生活の特徴をとらえて、幼児の発達段階や興味・関心などに配慮したおやつを工夫できる。	・ 幼児の発達段階や興味・関心などに配慮した材料の選択、献立、調理方法やもりつけ方ができる。	
・				・ 幼児の食生活やおやつの特徴、調理方法、盛りつけ方への配慮点について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育む手立て (言語活動など)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のおやつ作りの際に、幼児の食生活やおやつの特徴を学習を踏まえた上で、「カルシウムいっぱいのおやつ」や「野菜たっぷりおやつで元気！」など各グループで課題設定をし、計画調理することで、目標をもって学習に取り組むことができるように工夫する。 ・ 授業のまとめでは、各自が課題について、自己評価した後、グループ内で壮が評価を行うことにより、自己の実践を的確にふり返ることができ、改善点等を次の実践や生活に生かす場面につなげることができるようにする。また、各グループの実践、成果を学級全体に発表し意見交換をすることにより、課題解決に向けて野手立てや思考を深めたり、広げたりできるようにする。
